

ありた

発行者

医療法人八宏会有田胃腸病院
大分市牧1丁目2番6号
地域医療連携室
2018年1月1日

医療法人八宏会有田胃腸病院 地域医療連携室から、有田胃腸病院の最新情報をお伝えいたします。この広報誌が、弊院をより知っていただく一助になれば幸いです。

今月のINDEX

新年のご挨拶
部署のご紹介
感染対策委員会
看護部
地域連携室

院長 白水章夫 理事長代行 脇坂昌紀
第2弾 消化器外科 腹腔鏡手術について
感染対策、環境整備の評価を受けました
救急処置の学習会
編集後記

副院長 阿部寿徳



病院理念

- ・患者さまの人権尊重、並びに理解と納得に基づいた患者様中心の医療サービスを提供します。
- ・消化器疾患専門病院として地域医療に貢献し患者さまの立場に立った高度先進医療を実践します。

基本方針

- ・患者様一人ひとりに応じた適切かつ安全で良質な医療を提供します。
- ・職員は医療の質を高めるべく、常に自己研鑽に努め高度な専門医療を追求する



あけましておめでとうございます。
職員一同 皆様のご健康とご多幸を
お祈りしています。



新年のご挨拶



明けましておめでとうございます。

皆様方におかれましては、気持ちも新たに、健やかに新年をお迎えの事と思います。謹んでお慶びを申し上げます。本年もよろしくお願い致します。

当院も消化器科専門病院としてこの地に開院して以来、今年で38年目を迎えることが出来ました。これもひとえに皆様方の支えがあったからこそと感謝しております。

私が2代目の院長に就任し、9か月が経過致しました。その間、微力ながら当院の発展・改革に努めて参りました。外科領域では、それまで胆石症に対する胆のう摘出術を中心に施行していた腹腔鏡手術を、良性疾患では鼠径ヘルニア、悪性疾患では胃癌や大腸癌に導入し、順調に手術数を増やして参りました。いずれは基幹病院に負けない手術数を目指していきたいと思っています。内科領域では内視鏡検査は上部消化管検査（胃カメラ）が年間約7000件、下部内視鏡検査（大腸カメラ）が年間約3000件と安定した数を維持できてい

ますが、逆に患者様の待ち時間が多くなり、ご迷惑をおかけしています。このことを解消する手段として、来年度からは内視鏡検査の予約制を予定しています。

入院に関しましては、消化器疾患の専門病院という根幹は揺るぎませんが、高齢化する地域のニーズに対応するという観点から、高齢者の慢性期医療やリハビリテーション、さらに総合診療を必要とする患者様の受け入れを新年度から開始する予定です。

今年が当院にとって、変革と飛躍の年となるべく、職員一丸となり努力していくつもりです。

最後になりましたが、今年が皆様にとってより良い年になりますよう、ご多幸を祈念いたします。

院長 白水章夫



理事長代行
脇坂昌紀



新年明けましておめでとうございます。

皆様には、お健やかに新春をお迎えのことと、心からお慶び申し上げます。

当院は開院以来、消化器疾患専門病院として地域医療に貢献し、患者さまの立場にたった高度先進医療の実践を心がけてまいりました。その一方で、X線撮影システムに加え、最新鋭の80列X線CT装置、1.5テスラMRI装置、超音波診断装置、マンモグラフィ装置なども積極的に導入し、画像診断の分野にも力を注いでおります。近年の画像診断分野の進歩には目覚ましいものがあります。頭部～頸部～胸部～腹部～骨盤部～四肢に至る全身の種々の疾患を、適切な画像診断モダリティで迅速かつ正確に診断することを目指し、本年も微力ながら努力を続けてまいります。

地域の医療機関の先生方におかれましては、画像検査の適応のある患者さまがおられましたら、今年も引き続きご紹介いただきたくお願い申し上げます。また、これらの画像診断装置を一般の皆様方の検診にも積極的に利用し、がんの早期発見も目指しております。これまで症状のない早期の段階での肺がん、乳がん、前立腺がん、脳腫瘍などが発見されており、検診のひとつの手段として、一般の皆様方の健康管理にも寄与させていただければ幸いに存じます。

今年も患者さまやご家族の皆さま、各医療機関の先生方から信頼される病院を目指して努力を続けてまいります。さらなるご指導、ご鞭撻を宜しくお願い申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。



副院長
阿部寿徳



新年明けましておめでとうございます。

年頭に際しまして一言ご挨拶を申し上げます。

大分県民の平均寿命は、男女とも全国上位です。しかし健康上に問題のない状態で日常生活を送る期間「健康寿命」は、まだ中位のランクとなっています。大分県(健康づくり支援課)では、健康寿命日本一の実現を目標に県民総ぐるみの健康づくり運動を展開しており、県内団体(大学、経済、保健・医療・福祉、報道、行政等)の参加する「健康寿命日本一おおい創造会議」も立ち上がりました。

当院におきましても開業以来37年にわたり消化器病（特に胃腸疾患）を専門として診療を続けてまいりました。現在の日本では、死亡原因1位の「癌」と認知症などの加齢性疾患の問題とその対策が大きな潮流となっております。

当院では、ヘリコバクターピロリ除菌による胃癌や潰瘍の撲滅、そして大腸カメラにて大腸癌やポリープの早期発見・治療を徹底して行っております。また健康で活力ある日常生活に支障をきたす消化器疾患にも力を注いでおります。「美味しく食べて、すっきり快便!」をモットーに、本年も地域の皆様方の健康寿命へのお役に立てるよう精進いたす所存です。

どうぞ宜しくお願い申し上げます。



腹腔鏡下手術手術について

腹腔鏡下手術とは、お腹に大きな傷をつけることなく、二酸化炭素ガスを用いてお腹を膨らませ、お腹の壁に挿入したトロッカーという筒から小型カメラや器具を入れ、カメラの映像をモニターで見ながら行う手術の事です。最近をよくテレビなどでも取り上げられ、ご存知の方も多いと思います。

腹腔鏡下手術の利点としては、通常の開腹手術と比べ傷が小さいため、術後の痛みが少なく、腸管蠕動の回復が早い事が挙げられます。その為、早期退院・早期社会復帰が可能と考えられます。現在施行されている腹腔鏡下手術は、最も普及している胆嚢摘出術を始め、鼠径ヘルニア根治術や虫垂切除術等の良性疾患だけではなく、食道癌・胃癌・大腸癌・肝臓癌などの悪性疾患に対しても広く行われています。

2015年に行われた内視鏡外科学会によるアンケート調査では、腹腔鏡下手術は日本全国で年間9万例以上に行われており、その数は右肩上がりが増加し続けています。この数は当院のように学会に参加している施設のみの統計ですので、現実には年間10万例以上に行われていると考えられます。

当院でも、胆嚢結石症や胆嚢炎に対する腹腔鏡下胆嚢摘出術を1990年代後半より導入し、症例を積み重ねて参りました。その後、鼠径ヘルニアや虫垂炎に対する腹腔鏡下手術も少しずつ導入してまいりましたが、悪性疾患（癌）に対しては適応としていませんでした。

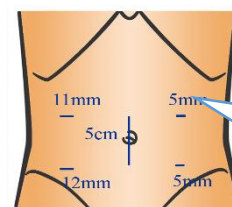
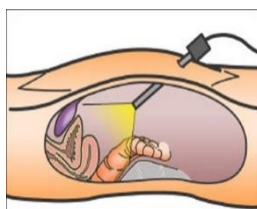
しかし、2017年4月より、胃癌・大腸癌に対する腹腔鏡下手術を本格的に導入し、同年12月までの9か月間で、胃癌に対し8例、大腸癌に対し19例の腹腔鏡下手術を施行してまいりました。胃癌に対しては全症例の50%以上（15例中8例）、大腸癌に対しては90%以上（21例中19例）の割合であり、これは基幹病院に比べ何ら遜色のない数字だと考えています。もちろん、従来の胆嚢摘出術や鼠径ヘルニア根治術に対しても、90%以上の割合で腹腔鏡下手術を施行しています。ただ、腹部手術の既往がある方は、腹腔鏡手術が困難であり、従来の開腹手術を行うことが多くなっています。

手術適応は、胃癌に対しては従来の幽門側胃切除術の適応となる早期胃癌および進行胃癌の一部とし、胃全摘術の適応となる胃癌は従来通りの開腹手術を施行しています。大腸癌に対しては進行癌まで適応としていますが、腸閉塞を伴う場合や径が10cmを超えるような巨大腫瘍の場合は従来の開腹手術を施行しています。しかし、今後は随時適応を拡大していこうと考え、日々努力しています。

胃癌・大腸癌に対する腹腔鏡下手術のイメージは、腹腔鏡下に胃や大腸の遊離、血管処理、リンパ節郭清までを行い、その後小開腹を置き、腫瘍部位を含めた臓器を引き出し・切除・再建を直視下で行います。こうすることで、従来の開腹手術と同等の根治性を得られると判断しています。

以上、簡単ですが腹腔鏡下手術の概要と当院における現状を紹介いたしました。気軽にご相談・ご紹介いただきますようお願い致します。

外科 白水章夫



小さな傷なので、痛みも軽く体へのダメージが少
ないです。

感染対策
委員会感染対策、環境整備の評価
を受けました

感染管理の合同ラウンドを実施しました。

入院、外来受診の患者様へのノロ、ロタ、インフルエンザウィルス等の感染防止のため様々な取り組みをしてきましたが、その一環として昨年11月、大分県立病院を中心とした感染対策チーム（ICT）6病院を招き感染対策、環境整備等々を評価する合同ラウンドを実施していただきました。

第三者から客観的に評価されることにより、気づきの機会を得て、改善点を認識することができ、大変有意義なラウンドとなりました。指摘された事項は優先順位をつけ順次改善しております。後日、情報を共有するとともに職員の感染対策への意識を更に高めるため「合同ラウンド報告会」を実施しました。



病棟ラウンド風景



ラウンド後の評価

今後とも患者様一人一人がご満足していただけるようにより一層、感染防止、環境整備の改善に取り組んでまいります。

尚、外来待合に患者様のお声を反映するための「ご意見箱」を設置しております。皆様のお声をお聞かせください。よろしくお願いいたします。



意見箱

感染対策委員会

副委員長 堤 勝也



看護部

救急処置の学習会

医療現場では看護師は、医師が、かけつけるまでの間に適切な蘇生行為を行うことが求められています。蘇生技術を上げるには日々の訓練が必要です。そこで、看護部は毎年医師を講師として一次救命処置の勉強会を行っています。昨年も綿田内科部長の指導の下、心臓マッサージ・人工呼吸・気道確保・AEDの操作を実習しました。体験した看護師からは「急変時は冷静に対応できるように日々イメージトレーニングが必要だと感じた」などの感想が出されました。受講した看護師には教育委員会から終了証が渡されました。



看護部教育委員会



血流停止の脳への影響

心臓が停止すると全身に血を循環させることができなくなる。脳は循環が停止してから15秒以内に意識が消失し、3～4分以上の血流停止（無酸素状態）にさらされると不可逆性の変化を起し、回復することが困難となります。

医学芸術社 心肺蘇生法完全マスター
監修／杉山貢より引用

看護部教育委員会

編集後記

あけましておめでとうございます。昨年の秋は駆け足で過ぎ去り、寒い冬が突然訪れたように感じましたが、新年はとても穏やかで好天に恵まれ寒さの中にも新春を感じました。

今年は、2018年（平成30年）当院の意気込みを語った院長・理事長代行・副院長の新年の挨拶を掲載することができました。消化器専門病院として更なる内容の充実を図るとともに、2025年問題に向けて医療体制の構築、再編成の時期を迎え38年目の歴史と共に新たな取り組みを始めたいです。私たちは常に患者さま、ご家族さまが安堵する表情を見たくて医療に取り組んでいます。地域の皆様や連携病院様に利用していただける病院を目指し、今後も広報誌で有田胃腸病院のご理解を頂けるよう発信をしてみたいです。本年もよろしくお願いいたします。



有田胃腸病院からの眺望



地域医療連携室 小出・菊池